北穂高岳東稜バリエーションルート

H.C.teruru 濱政(はませ)

北穂高岳北峰からほぼ東に伸びている尾根を東稜と呼び、バリエーションルートの入門コースになっている。涸沢と横尾本谷を分ける尾根の一部で、下部はハイマツなどが生い茂っていて登攀の対象となるのは上部の方になる。

H.C.teruru では、バリエーションルートや沢登のリーダー養成のためのトレーニングを実施しており、 その一環として北穂東稜にチャレンジすることになった。

- ●日程:2016年8月10日夜発-8月13日
- ●メンバー: 濱政(CL)、三宅(SL)、高田、日高、北山 神田(神田山の会(昨年まで teruru 所属))

●記録

○8月11日 晴れ

上高地バスターミナルを早朝に出発、梓川沿いに横尾~涸沢に入りテント泊。 お盆休みの初日とあって、テントは 500 張弱あったらしいです。

○8月12日 快晴のち晴れときどき曇り

3:00 起床

4:20 6人パーティーで出発

昨日の上高地から涸沢まで担いできたテント泊装備から一転、登攀具と行動食と雨合羽の軽装で 東稜へアタック!

南稜に向かう一般道をしばらく進む。次第に夜が明け前穂北尾根や奥穂のモルゲンロートに染まる姿が美しい。涸沢から1時間ほど登るとガレ場が現れ南稜へ取り付くハシゴが左側に見える。

5:20 南稜との分岐

ここで登攀具を着けて進路を右に変えて、草付の尾根を目標にガレ場をトラバース。テンポよくガレ場を歩いていると浮石に乗りバランスを崩すこと度々。しばらく進むとY字のルンゼが現れる。今年は暖冬で早くから雪渓はなくなっていたようです。ルンゼの右股の左側の踏み跡を進む、簡単な岩場を登ると東稜の稜線へ出る。

横尾本谷側に目をやると南岳の肩に槍ヶ岳の穂先が顔を出している。涸沢側の穂高の景色も見飽きたので槍の姿が新鮮に感じられた。北穂沢側は急で本谷側の傾斜は緩やかになっている。 稜線を進むと右側に巻道、左側は岩稜となっている。せっかくなので巻かずに左側の岩稜伝いに行く。リッジを少し進むと東稜(下の)コルに出る。

快適な稜線の岩稜歩きが続く。途中で北穂沢側に出て幅 40cmほどの岩棚をトラバースするところもあり、高度感があって楽しい。

6:40 ゴジラの背(核心部)

1P 目

3 人1組で 50mロープを半分に折り返して、真ん中をトップ、末端を2、3番目に結ぶ。ハーケン等の支点が無かったので小ピナクルにスリング掛けて支点を作る。尾根自体は両側が鋭く切れた幅数十センチほどのナイフリッジ。下を見るとすごく高度感あり転落すれば即アウト(>_<) 手足共にしっかりホールドがあるが安全のためロープを出したほうがいい。

ナイフリッジを北穂沢側に回り込み数メートル進み小さなギャップを越えると3m程のほぼ垂直な壁が出てくる。この壁の付け根にハーケンがあったので念のためランニングをとったが、短いヌンチャクを使ってしまったのが悪かった。そのままリッジに上がり横尾本谷側へ回り込んだまでは良かったが、さっき壁の下で取ったランニングがロープに屈曲部をつくり、流れを悪くしている。そのため、支点に使えそうな一番高いピナクルまでロープが数メートル届かず、手前のハーケンと小岩で終了点を作ることになる。

50mロープ折り返しの 25mでは少し短く30mくらい欲しい。2番目、3番目のビレイを開始するが、あまりにもロープが重いので2番目の人にピナクル直下のランニングを外してもらい、スムーズにロープを引けるようになる。あそこでは長めのスリングを使用するか、あえてその場所でランニングを取らないほうがロープの流れが良かったのかもしれない。



≪ゴジラの背 1ピッチ目≫

2P 目

一番高いピナクルで支点を取り、さっきと同じ3人1組で50mロープを半分で折り返して同じように結ぶ。ここも左右に切れ落ちた細いリッジだが、手足のホールドが沢山あるので落ち着けば大丈夫。ランニングは小岩にスリングを差し入れて1箇所取った。15mほど進み、安定した場所に終了点を作る。ロープの流れも良く、2、3番目のビレイも即終了。

ここから先は安定していたので横尾本谷側をロープ確保無しで10mほど進むと、懸垂下降点が現れる。ここのピナクルに残置スリングが何本もかけられている。ここから東稜のコルへの下りは横尾本谷側の巻道とクライムダウンも可能だが、残置スリングを支点に使わせてもらい 10mちょっと懸垂下降でおりる。



≪ゴジラの背終了地点 懸垂下降の様子≫

8:00 東稜(上の)コル

ここから北穂高岳小屋までは登攀具の必要ないが急登だ。もう少し楽しみたかったので踏み跡を無視して岩場をよじ登ると、小屋の石垣が見え登り切ると登山客で賑わっている北穂高小屋のテラスにいきなり飛び出る。

9:00 北穂高岳山荘到着

テラスでしばし休憩して、南稜を下って帰るのは時間が余るので涸沢岳を縦走しザイテングラードで涸沢へ下る。

〇8月13日 晴れ パノラマコースにて上高地へ下りる。

<感想>

初日から3日間晴天に恵まれ、穂高の景色を堪能できた。東稜ルートでは渋滞を想定していましたがスムーズに通過でき予定通りに突破できたのは幸運でした。北穂高岳東稜は幅数十センチのナイフリッジの通過が核心部で、高度感に慣れてしまえば岩登りの技術的には難しくなく、ここに鎖などを設置すれば一般登山道と変わらない印象でした。それでも前穂北尾根のスカイラインや槍を見ながらの東稜登攀は最高でした。



≪ゴジラの背 懸垂下降 降下地点にライチョウ≫